

旅する“意味” をつくる

の多様な
ステークホルダーが共創する
地域プラットフォーム

2021年9月5日(日)



栗原市農泊推進協議会

事務局長 大場 寿樹

自己紹介

宮城県 栗原市（くりはらし）

<栗原郡10町村>

築館町、若柳町、栗駒町、高清水町、一迫町、
瀬峰町、鶯沢町、金成町、志波姫町、花山村

平成の大合併



2005年4月1日

栗原市

■ ■ ■ 概 要 ■ ■ ■

平成17年（2005年）4月1日に旧栗原郡10町村が合併して誕生。
気候は、冬場の降雪量に大きな差があり、栗駒山に近い北西部は雪が多く、
大崎平野に連なる南東部では雪が少なく温暖です。

【面積】804.97平方キロメートル ＊面積の8割近くが森林や原野、田畑

【人口】68,550人（男：33,145人、女：35,405人）

【世帯数】24,889世帯 【人口密度】85.16人/平方キロメートル

（出典：『統計でみる栗原平成30年度版』※平成30年9月末現在）



自己紹介



栗原市農泊推進協議会

【設立】2018（平成30）年5月17日

【目的】

栗原市の地域資源を活用した滞在型の旅を創出することにより、栗原市民がより豊かな暮らしを営み、持続的な地域経営の実現に寄与することを目的とする。

【事業】

- 栗原市内外の関係者のネットワーク化、コミュニケーションの実践
- 宿泊、飲食事業の機会創出と運営サポート
- 農業関連商品の販売促進
- 体験プログラムの創出と運営サポート
- サイクルツーリズムの推進
- 上記事業に伴うPRの実践
- その他、目的を達成するために必要な事業

観光・ツーリズム・農業・六次産業・
商店街・地域活性化・宿泊事業者・
行政（農政・観光・定住移住・地域振興）

【特徴】

多様な業種が参画

【会員】団体9、個人4、オブザーバー4機関

【役員】8人（会長、副会長、理事4人、監事2人）

【事務局】（一社）くりはらツーリズムネットワーク

【主な事業実績】

- 令和2年度（補正予算）国立公園・温泉地等での滞在型ツアー推進事業費補助金
- 令和2年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業費補助金
- 令和元年度農山漁村振興交付金
- 令和元年度みやぎ農山漁村交流促進事業補助金
- 平成30年度農山漁村振興交付金

自己紹介

大場 寿樹（おおば ひさき）

（一社）くりはらツーリズムネットワーク 業務執行理事
栗原市農泊推進協議会 事務局長
1974年生、栗原市出身・在住（旧築館町）、
4人家族（母、妻、娘）

【職歴】

1994年4月～2013年3月 栗原市役所

2013年4月～現在 現職

【趣味・特技】

- ・スノーボード ・オートバイ ・読書 ・柔道
- ・動物（犬、魚）
- ・PR ・デザイン ・観る（田舎の風景、ワザ）
- ・自然観察（渡り鳥） ・コーヒー ・藁細工
- ・自転車 ・食べる



伊豆沼・内沼

観光客入込数

【2005年（平成17年）】
1,554,463人／年（日帰り）
139,938人／年（宿泊）

【2016年（平成28年）】
2,007,132人／年（日帰り）
123,058人／年（宿泊）

（出典：宮城県統計年鑑「観光統計概要」）

栗駒山

栗原市の農泊推進

＜ミッション＞
滞在型の旅を創出



旅する“意味”
をつくる

体験プログラム
サイクルツーリズム
アドベンチャーツーリズム
創業支援・人材育成
民泊・移住体験等の受入
飲食フェア
空き家活用
ロングトレイル etc.

栗原市の農泊推進



年間100回以上の活動



2021年9月5日（日）

Copyright (C) 栗原市農泊推進協議会 All Rights Reserved.

日帰りで民泊



千葉さん(右)とサツマイモを選ぶ子どもたち。8日、栗原市若柳

サツマイモのプランを提供する同市若柳の民泊「大畑」には8日、仙台市の家族5人が体験に訪れ、焼き芋作りなどを楽しんだ。

12月上旬まで レジャー需要

泊関係者がコロナ下での活用方法を話し合い、試験的に提供することにした。ツーリズムネットワークの担当者は「地元や近隣に住む人たちに気軽に里のレジャーを楽しんでもらいたい」と呼び掛ける。

両プランともに1日1組限定。サツマイモは1日4人以下で11月末まで。芋煮は6人以下で12月上旬まで。料金は材料費込み1組3000円。1週間前までに予約する。1人3000円で宿泊もできる。連絡先はくりはらツーリズムネットワーク090(4889)5310。



栗原市若柳にある伝統的な農家建物「長屋門」を改修して宿泊施設にするプロジェクトに、東大大学院生5人の研究チームが取り組んでいる。一般社団法人「くりはらツーリズムネットワーク」が今年3月、東大の林憲吾准教授の研究室に設計を依頼した。長屋門を現代風の宿に生まれ変わらせ、栗原の魅力を発信したい考え。

宿泊施設に改修する予定の長屋門の内部

改修を計画するのは、くりはらツーリズムネットワークの事務局がある民家の長屋門。床面積約65平方メートル、築150年ほどとみられる。宿泊は5人程度を想定する。9月末に基本設計を終え、素材選定や費用積算を経て、2022年の開業を目指す。

ネットワークと東大をつないでのは、東京都武蔵野市の東大大学院2年海山裕太さん(24)。栗原市若柳の祖母宅を訪れたら、市内に点在する長屋門が気になったという。調べると、栗原市は500軒以上現存する。

東大院生ら 歴史や構造調査 22年の開業目指す

提案 企画が決まった。林准教授は、外から来る人に向けて、地域の資源を宿として活用するのは面白い取り組みと評価する。

海山さんは3月以降、祖母宅に滞在して長屋門の歴史や構造などを調査した。今月12日、現地で中間報告会があり、ネットワーク関係者らに調査結果などを説明した。「時代ごとの多様な変化を受け入れてきた特性を生かし、現代の用途に合った宿泊施設にしたい」と力を込める。

プロジェクトのメンバーには、栗原市の農泊担当の地域おこし協力隊員野間穂さん(25)も加わる。「完成したら宿泊施設の運営をしてみたい」と夢を膨らませる。

ネットワークは今後、改修費用の確保を目指す。大場壽樹事務局長は「地元の人々が地域の魅力を再確認する場にもなる。宿泊施設の目的や計画を説明し広く協力を呼び掛けたい」と話す。

長屋門 現代風の宿に

うちわ越しに会話する佐藤さん(右)と大場さん



旬を迎えた栗原市の「伊豆沼れんこん」を使ったメニューと食事中の飛沫を防ぐうちわをセットにしたユニークなフェアが、15日から仙台市と栗原市の飲食店33店で始まる。伊豆沼れんこんのPRと売り上げの落ち込む飲食店の支援が目的。栗原市の農家でつくる市農業振興協議会が企画した。

参加店では、新型コロナウイルスの感染防止用に直径約20センチのうちわを無料配布する。食事中に口元を隠して会話するときに使ってもらおう。他の飲食客へのPR効果も期待する。

伊豆沼れんこんの北限の生産地といわれ、寒さに

会話はうちわ越しで

フェアは3月7日まで。ソーセージや揚げ物など各店オリジナルのレンコン料理を楽しむ。参加店は栗原市のウェブサイトを確認できる。

参加店の一つ、栗原市一迫の料理店「丸勝」は「伊豆沼れんこん」を用意。今月11日にはフェアに先立ち、佐藤さんと若手生産者の大場慶久さん(24)が試食し、レンコンの野菜炒めとチップスを具に使ったラーメンを味わいながら、うちわ越しの会話を楽しんだ。

ラーメン、ソーセージ、揚げ物… 伊豆沼れんこん味わって

よって甘味を増すのが特徴。生産者は、水田に張った水を砕いた後、胸まで冷水に漬かって収穫する。

栗原市若柳の生産者8人でつくる伊豆沼れんこん育成協議会の会長佐藤優さん(73)は「今冬はつるはしで水を割るほど寒さが厳しいので、レンコンの甘味がひととき強い」と説明する。

仙台と栗原・15日から 33飲食店でフェア

栗原市の農泊推進

農泊に関する多様な目的

観光・定住移住・農林漁業振興・六次化・地域づくり等

ステークホルダー(利害関係者)

オブザーバー

会員

外部機関

アクション(多様な取組みを実践)

企画

人材

資金

モノ

実績
共有

利益
分配

事業の実績・効果

組織というよりも...

共創 (コ・クリエーション)

するための

プラットフォーム

目的で
つながる